令 和 5 年 度 事 業 計 画

公益財団法人　滋賀県陶芸の森

1　基　本　方　針

陶芸の森は、滋賀県の伝統的工芸品であり地場産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指している。

令和５年度は、県および甲賀市からの指定管理第４期（５年間）の３年目となり、第４期中期経営計画に基づいて引き続き、誘客の推進、国際的な情報発信、魅力ある展覧会の開催、次世代育成などの事業を積極的に展開し、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に寄与する。

さらに、令和４年度に陶芸の森の隣接地に移転した信楽窯業技術試験場（以下「試験場」という。）との連携をより一層深め、陶器産業の振興支援策を進める。

なお、エネルギー・原材料価格の高騰による事業財源への影響が懸念される等、先行きが不透明な部分もあるが、コロナ禍からの本格的な回復に向け、陶芸の森がより一層、来園者や地域から親しまれ、利用される施設となるよう、創意工夫に努める。

2　事　業　計　画

(1) 県民に親しまれる施設運営に関する事業

ア　公園の魅力の向上

太陽の広場や星の広場などの公園機能の充実を図り、来園者に対して快適な空間の提供とサービスの向上に努める。

イ　地域の観光拠点としての集客促進事業

陶芸の森の地域資源を活かしながら、やきものファンに信楽をより知ってもらう陶芸制作講座「しがらき学ノススメ」や、作家が直接販売するセラミック・アート・マーケットの開催、一般参加型のイベントの誘致など、陶芸の森の魅力を向上し、集客を促進する。

(2) 地元陶器産業の振興に関する事業

ア　試験場との連携事業

かつて、試験場に在籍し活躍した作家が手掛けた干支置物等の地元陶器産業界による商品化に向けて、企画協力を行う。また、隣接地に移転した試験場の研修生に対し、滞在アーティストや職員による講演、施設案内等を行い、アートやデザイン感覚等の向上を図る機会を提供するほか、試験場のＶＲ技術を活用し、陶芸館所蔵品のデジタル情報を順次追加することで、アーカイブサイトの充実を図り、インターネットによる展覧会の開催など、情報を発信する。

イ　信楽高等学校への支援事業

信楽高等学校の各学年に対し、陶芸の森で体験実習や授業を行い、信楽高等学校地域支援協議会等の地域団体と連携して地域での人材育成を支援する。

ウ　若手陶器産業後継者等への支援事業

若手陶芸作家の発掘や陶器産業後継者の育成支援の一環として、陶芸館ミュージアムショップの「カプセルトイ」で販売するモデル作品を広く公募する。デザインの優れたモデルについては、賞の授与に加え、陶芸館ミュージアムショップの「カプセルトイ」で販売する。

(3) 陶芸文化の向上と交流に資する事業

ア　展覧会開催事業

新しい視点を交えながら、多彩な魅力あふれる展覧会を開催し、陶芸文化の向上を図る。また、陶芸の森と地域との連携強化として、地元企業と連携企画展を開催するとともに、近年のデジタル化に着目し、試験場の協力も得て、モノづくりの手法の一つとなった３Ｄスキャンを活用し、新時代の造形表現を紹介する。

(ｱ) 特別企画展「湯呑茶碗－日本人がこよなく愛したやきもの」

(ｲ) 特別展「岡本太郎　アートの夢～陶壁・陶板・21世紀のフィギュア造形」パート１

(ｳ) 特別展「岡本太郎　アートの夢～陶壁・陶板・21世紀のフィギュア造形」パート２

(ｴ) 特別展「リサ・ラーソン展　知られざる創造の世界～クラシックな名作とともに～」

(ｵ) 陶芸館ギャラリー企画

イ　創作事業（アーティスト・イン・レジデンス事業）

国内外からのスタジオ・アーティスト（研修作家）の受入れや、ゲスト・アーティストの招聘を通じて、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させるとともに、より良い作家を多く受け入れることで、信楽の知名度向上に貢献する。

また、陶芸家の派遣も含め、国内外の類似機関との連携を強化し、信楽から世界に向けて積極的に陶芸文化の情報を発信する。

ウ　子どもやきもの交流事業

陶芸の森の特性を活かし、子どもたちを対象に、やきものに関する鑑賞や体験事業を様々な形で展開する「つちっこプログラム」をさらに充実させることで、信楽焼を始めとした陶芸文化の普及や陶芸の森へのリピーター確保を促進し、次世代の陶芸の森ファン獲得に繋げる。

また、学校行事として来園した際の展覧会鑑賞や登り窯見学の充実を図り、心豊かで創造力にあふれた人材の育成に努めるとともに、子どもたちや障がいがある方の造形活動に対して支援する。

(4) 企画事業

来園者に対し、展覧会図録や陶芸関係書籍およびオリジナルグッズ、カプセルトイ、特別展関連商品、また、試験場との企画協力により商品化予定のアニマルトイなど、独自色のある商品の販売を行う。

併せて、インターネットを活用したオンラインショップによる商品提供や、民間事業者と連携した企画実施により販売を促進するとともに、地元企業等とも連携し、企画展示の内容に合致する商品や地元で生産された製品などを販売する。

収　支　予　算　書

自　令和 5 年 4 月 1 日
至　令和 6 年 3 月 31 日

（単位　千円）

科目	本年度	前年度	比較	備考
Ⅰ　一般正味財産増減の部				
1　経常増減の部				
(1)　経常収益				
基本財産運用益	1	1	－	
事業収益	237,747	230,941	6,806	
受取補助金等	1,200	1,200	－	
雑収益	1,355	1,799	△ 444	
経常収益計	240,303	233,941	6,362	
(2)　経常費用				
事業費	236,049	230,629	5,420	
管理費	4,254	4,312	△ 58	
経常費用計	240,303	234,941	5,362	
（うち人件費）	94,691	98,156	△ 3,465	
評価損益等調整前当期経常増減額	－	△ 1,000	1,000	
評価損益等計	－	－	－	
当期経常増減額	－	△ 1,000	1,000	
税引前当期一般正味財産増減額	－	△ 1,000	1,000	
法人税、住民税及び事業税	2,000	2,000	－	
当期一般正味財産増減額	△ 2,000	△ 3,000	1,000	
一般正味財産期首残高	127,932	130,932	△ 3,000	
一般正味財産期末残高	125,932	127,932	△ 2,000	
Ⅱ　指定正味財産増減の部				
受取寄付金	100	100	－	
当期指定正味財産増減額	100	100	－	
指定正味財産期首残高	31,334	31,234	100	
指定正味財産期末残高	31,434	31,334	100	
Ⅲ　正味財産期末残高	157,366	159,266	△ 1,900	

収　支　予　算　書　内　訳　表

自　令和 5 年 4 月 1 日
至　令和 6 年 3 月 31 日

（単位　千円）

科　　目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引消去	合　計
Ⅰ　一般正味財産増減の部					
1　経常増減の部					
(1)　経常収益					
基本財産運用益	－	－	1	－	1
事業収益	205,607	32,140	－	－	237,747
受取補助金等	1,200	－	－	－	1,200
雑収益	－	1,353	2	－	1,355
経常収益計	206,807	33,493	3	－	240,303
(2)　経常費用					
事業費	215,563	20,486	－	－	236,049
管理費	－	－	4,254	－	4,254
経常費用計	215,563	20,486	4,254	－	240,303
（うち人件費）	90,689	1,842	2,160	－	94,691
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 8,756	13,007	△ 4,251	－	－
評価損益等計	－	－	－	－	－
当期経常増減額	△ 8,756	13,007	△ 4,251	－	－
他会計振替額	6,319	△ 6,319	－	－	－
税引前当期一般正味財産増減額	△ 2,437	6,688	△ 4,251	－	－
法人税、住民税及び事業税	－	2,000	－	－	2,000
当期一般正味財産増減額	△ 2,437	4,688	△ 4,251	－	△ 2,000
一般正味財産期首残高	137,768	40,670	△ 50,506	－	127,932
一般正味財産期末残高	135,331	45,358	△ 54,757	－	125,932
Ⅱ　指定正味財産増減の部					
受取寄付金	100	－	－	－	100
当期指定正味財産増減額	100	－	－	－	100
指定正味財産期首残高	16,334	－	15,000	－	31,334
指定正味財産期末残高	16,434	－	15,000	－	31,434
Ⅲ　正味財産期末残高	151,765	45,358	△ 39,757	－	157,366

資金調達および設備投資の見込みについて

自　令和 5 年 4 月 1 日
至　令和 6 年 3 月 31 日

1　資金調達の見込みについて

なし

2　設備投資の見込みについて

なし

令 和 4 年 度 事 業 報 告

公益財団法人　滋賀県陶芸の森

1　事　業　概　要

陶芸の森は、滋賀県の伝統的工芸品であり地場産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指している。

令和４年度においては、県および甲賀市からの指定管理第４期（５年間）の２年目として、第４期中期経営計画に基づき、県、甲賀市と連携を図り、管理運営目標の達成に向けて施設の適切な運営管理に努めた。

なお、令和２年度からの新型コロナウイルス感染症の流行も年度後半には収束傾向が見られ、展覧会や各種イベントの開催、陶芸講座や子どもやきもの交流事業等の実施を通じて、入園者は概ねコロナ禍前に回復したと考えられる。

また、令和４年10月に信楽窯業技術試験場（以下「試験場」という。）が隣接地に移転したことから、定期的に合同検討会を持つなど、より一層連携を深め、試験場の業績を取り上げた移転記念展の開催や、試験場の最新３Ｄ技術を活用した干支のギャラリー展示を行うとともに、技術協力を受けて、収蔵品や展示作品を３Ｄ・高精細ＶＲ映像で紹介し、バーチャルミュージアムの充実を図ったところである。引き続き連携協力をしながら、陶芸の森の魅力ある空間づくりや陶芸文化の発信、陶器産業の振興支援に取り組んでいくこととする。

そうした中で、令和４年度の入園者数は、施設修繕工事に伴い１か月臨時休園したにも関わらず、目標値の35万人に迫る346,154人であった。

2　事　業　実　績

(1) 県民に親しまれる施設運営に関する事業

ア　公園の魅力の向上

人々が自由に憩い楽しめるよう、太陽の広場や星の広場などの公園機能の充実を図り、来園者に対して快適な空間の提供とサービスの向上に努めた。

イ　地域の観光拠点としての集客促進事業

陶芸の森の地域資源を活かしながら、やきものファンに信楽をより知ってもらうために、陶芸体験講座として「しがらき学ノススメ」や「セラミック・アート・マーケット」などを開催した。

(2) 産業の振興に関する事業

ア　試験場との連携事業

信楽窯業技術試験場移転記念展「ジャパン・スタイルー信楽・クラフトデザインのあゆみ」の開催や、試験場の開所を記念し、前身の模範工場時代からのあゆみを試作品や参考作品、関係資料などを通して紹介するロビー展「信楽窯業技術試験場のあゆみ[1901－2022]」への協力を行った。また、滞在アーティストのトークショーに試験場研修生等を招き、アートやデザイン感覚の向上を図る機会を提供するなど、相互交流の場を設けて連携を深めた。

イ　信楽高等学校への支援事業

人材育成事業として、信楽高等学校の支援を信楽高等学校地域協議会等の地域団体と連携して行い、地域での人材育成を支援した。

(3) 陶芸文化の向上と交流に資する事業

ア　展覧会開催事業

年間を通じて下記の４つの展覧会事業とギャラリースペースを活用した陶芸館独自の企画展を行った。

(ｱ) 信楽窯業技術試験場移転記念展「ジャパン・スタイルー信楽・クラフトデザインのあゆみ」

(ｲ) 特別展「土に託されたきらめきー子どもたち×アーティスト／セラミックス最先端」

(ｳ) 特別展「静中動：韓国のスピリットをたどるー開かれた陶のアート」

(ｴ) 特別企画展「湯呑茶碗ー日本人がこよなく愛したやきもの」

(ｵ) 陶芸館ギャラリー企画

イ　創作事業（アーティスト・イン・レジデンス事業）

国内外からスタジオ・アーティスト（研修作家）の受入れや、ゲスト・アーティストの招聘などを行うことによって、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させるとともに、より良い作家、意欲的な作家を受け入れることによって、信楽から世界に向けて陶芸文化の情報を発信し、信楽地域の知名度向上に寄与した。なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況も見極めながら、感染防止対策を講じて国内在住のアーティストを中心に受入れを行った。

ウ　子どもやきもの交流事業

陶芸作家や地元産業、福祉、教育の関係者等で構成する「世界にひとつの宝物づくり実行委員会」とともに、陶芸の森の特性を活かした、やきものに関する鑑賞教育や体験教育の場を「つちっこプログラム」として提供し、将来にわたる陶芸の森ファンの獲得に努めたほか、子どもたちや障がいがある方の造形活動に対して支援した。

(4) 企画事業

ミュージアムショップを運営し、展覧会関連商品、オリジナル商品、陶芸関係書籍を販売した。また、インターネットを活用したオンラインショップでの商品の提供や販売の促進に努めた。

正味財産増減計算書

自　令和 4 年 4 月 1 日
至　令和 5 年 3 月 31 日

（単位　円）

科目	本年度	前年度	比較
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1　経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	600	601	△ 1
特定資産運用益	1,181	1,132	49
事業収益	233,771,313	235,117,937	△ 1,346,624
受取補助金等	8,915,000	11,244,141	△ 2,329,141
雑収益	1,326,020	692,533	633,487
経常収益計	244,014,114	247,056,344	△ 3,042,230
(2) 経常費用			
事業費	239,861,706	242,646,736	△ 2,785,030
管理費	4,272,638	4,206,504	66,134
経常費用計	244,134,344	246,853,240	△ 2,718,896
（うち人件費）	98,879,354	99,198,442	△ 319,088
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 120,230	203,104	△ 323,334
評価損益等計	－	－	－
当期経常増減額	△ 120,230	203,104	△ 323,334
税引前当期一般正味財産増減額	△ 120,230	203,104	△ 323,334
法人税、住民税及び事業税	1,813,200	995,000	818,200
当期一般正味財産増減額	△ 1,933,430	△ 791,896	△ 1,141,534
一般正味財産期首残高	175,668,925	176,460,821	△ 791,896
一般正味財産期末残高	173,735,495	175,668,925	△ 1,933,430
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
特定資産運用益	6	6	－
受取寄付金	60,000	－	60,000
当期指定正味財産増減額	60,006	6	60,000
指定正味財産期首残高	30,993,184	30,993,178	6
指定正味財産期末残高	31,053,190	30,993,184	60,006
Ⅲ　正味財産期末残高	204,788,685	206,662,109	△ 1,873,424

正味財産増減計算書内訳表

自　令和 4 年 4 月 1 日
至　令和 5 年 3 月 31 日

（単位　円）

科　　目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引消去	合　計
Ⅰ　一般正味財産増減の部					
1　経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	300	－	300	－	600
特定資産運用益	－	－	1,181	－	1,181
事業収益	202,442,831	31,328,482	－	－	233,771,313
受取補助金等	8,508,895	406,105	－	－	8,915,000
雑収益	－	1,325,722	298	－	1,326,020
経常収益計	210,952,026	33,060,309	1,779	－	244,014,114
(2) 経常費用					
事業費	221,486,155	18,375,551	－	－	239,861,706
管理費	－	－	4,272,638	－	4,272,638
経常費用計	221,486,155	18,375,551	4,272,638	－	244,134,344
（うち人件費）	94,756,235	1,806,088	2,317,031	－	98,879,354
評価損益等調整前当期経常増減額	△10,534,129	14,684,758	△ 4,270,859	－	△ 120,230
評価損益等計	－	－	－	－	－
当期経常増減額	△10,534,129	14,684,758	△ 4,270,859	－	△ 120,230
他会計振替額	7,178,718	△ 7,178,718	－	－	－
税引前当期一般正味財産増減額	△ 3,355,411	7,506,040	△ 4,270,859	－	△ 120,230
法人税、住民税及び事業税	－	1,813,200	－	－	1,813,200
当期一般正味財産増減額	△ 3,355,411	5,692,840	△ 4,270,859	－	△ 1,933,430
一般正味財産期首残高	162,180,985	52,539,895	△39,051,955		175,668,925
一般正味財産期末残高	158,825,574	58,232,735	△43,322,814	－	173,735,495
Ⅱ　指定正味財産増減の部					
特定資産運用益	6	－	－	－	6
受取寄付金	60,000	－	－	－	60,000
当期指定正味財産増減額	60,006	－	－	－	60,006
指定正味財産期首残高	15,993,184	－	15,000,000	－	30,993,184
指定正味財産期末残高	16,053,190	－	15,000,000	－	31,053,190
Ⅲ　正味財産期末残高	174,878,764	58,232,735	△28,322,814		204,788,685

貸　借　対　照　表

令和 5 年 3 月 31 日現在

（単位　円）

科目	本年度	前年度	比較
Ⅰ 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	20,086,387	23,011,233	△ 2,924,846
未収金	5,348,045	3,121,312	2,226,733
貯蔵品（販売品）	2,074,845	1,956,153	118,692
流動資産合計	27,509,277	28,088,698	△ 579,421
2 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産引当資産	30,000,000	30,000,000	－
基本財産合計	30,000,000	30,000,000	－
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	57,842,745	52,633,819	5,208,926
売店改修積立資産	1,400,000	1,400,000	－
資産購入積立資産	6,090,327	5,504,264	586,063
記念事業等積立資産	4,000,000	4,000,000	－
やきもの振興基金積立資産	1,053,190	993,184	60,006
特定資産合計	70,386,262	64,531,267	5,854,995
(3) その他固定資産			
車両運搬具	160,041	239,940	△ 79,899
什器備品	692,433	1,198,597	△ 506,164
電話加入権	12,000	12,000	－
陶芸作品	152,577,000	152,577,000	－
その他固定資産合計	153,441,474	154,027,537	△ 586,063
固定資産合計	253,827,736	248,558,804	5,268,932
資産合計	281,337,013	276,647,502	4,689,511
Ⅱ 負債の部			
1 流動負債			
未払金	13,953,483	14,628,174	△ 674,691
未払法人税等	1,813,200	995,000	818,200
未払消費税等	2,938,900	1,728,400	1,210,500
流動負債合計	18,705,583	17,351,574	1,354,009
2 固定負債			
退職給付引当金	57,842,745	52,633,819	5,208,926
固定負債合計	57,842,745	52,633,819	5,208,926
負債合計	76,548,328	69,985,393	6,562,935

科　　目	本　年　度	前　年　度	比　　較
Ⅲ　正味財産の部			
1　指定正味財産			
県補助金	25,000,000	25,000,000	－
市補助金	5,000,000	5,000,000	－
寄付金	1,053,190	993,184	60,006
指定正味財産合計	31,053,190	30,993,184	60,006
（うち基本財産への充当額）	(30,000,000)	(30,000,000)	(－)
（うち特定資産への充当額）	(1,053,190)	(993,184)	(60,006)
2　一般正味財産	173,735,495	175,668,925	△　1,933,430
（うち特定資産への充当額）	(11,490,327)	(10,904,264)	(586,063)
正味財産合計	204,788,685	206,662,109	△　1,873,424
負債及び正味財産合計	281,337,013	276,647,502	4,689,511